

チャットシステムを利用した英語ディスカッションの試み

兼重 昇*, 藤井 浩美**

As IT [information technology] infrastructure is developed, communication ways are changing dramatically and drastically. One of the benefits of this development is the internet, which enables us to communicate with people throughout the world even in real time. There are various ways of transmitting information; typing or delivering high-quality video across the internet to each other. Sometimes, 'communication' is associated with face to face interaction, but there still remains the importance of writing and reading.

This article reports a lesson using a chat system (L.E.C.S.). The purposes of this lesson were to give students opportunities to use English through L.E.C.S. and to motivate their communication in English. The results are as follows. Firstly, the students expressed favorable attitude toward the English lessons using the chat system. Secondly, the chat system was effective in reducing students' negative anxiety. We also discussed the remaining problems for further practices.

〔キーワード：チャット，文字コミュニケーション，学習動機，L.E.C.S.〕

I. はじめに

近年のコンピュータの普及とネットワーク環境の整備によって、コミュニケーションの形態は多様になっている。外国語教育においても同様で、音声重視のスピーキング、リスニングだけでなく、インターネット上の情報を得たり、情報を発信したりという文字によるコミュニケーションも盛んに行われている。もちろんブロードバンドなど、整備された環境では、動画でのやりとりも可能であるが、コミュニケーション・ツールとしての文字の役割は依然として重要である。携帯端末をつかった即時性の高いメール交信の高い普及率をみても、文字コミュニケーション独特の性格とも併せて意義のあるものであろう。

このような背景のもと、本稿は外国語学習において文字を利用したコミュニケーションのひとつの方法としてチャットシステムを利用した実践を行い、そこにあらわれる学習者の意識とその実際がどのようなものであるかパイロット的に調査し報告するものである。

II. チャットシステム利用について

今回、「英語リーディングⅣ」の授業において、チャットシステムを利用した理由は、次の通りである。実施した授業はTOEIC受験のための共通テキストを使った授業であるが、知識注入型の授業で単調になってしまう傾向にあったこと、授業内で実際に英語を使うという機会

を設定することが学習者の英語学習に対するモチベーションを高めることにつながるのではないかということ、口頭によるコミュニケーションは「英語コミュニケーション」という既存の授業によって行われており、リアルタイムに読む、書くというコミュニケーションを行う必要があること、ネットワーク利用によるネット辞書の効果的な使用を促進すること、などである。

チャット自体の利点については、原田(2000)が口頭会話の問題と照らし合わせて表1のように述べている。face to faceでの会話では、間違いに対する緊張感やクラスメートに対する恥ずかしさといった心理的緊張感が強すぎるが、チャットでは、チャットネーム(ハンドルネーム)を使うことで、その心理的緊張感をやわらげることができる。もちろんこれは消極的な意味でなく、その環境での言語使用を自信につなげていくことを次の段階として用意しておく必要も含んでいる。

一方、こうした心理的な問題に密接に影響を与えているのが学習者の言語的能力、いわゆる文法力・語彙力である。これらは、コミュニケーションのためにはいうまでもなく「基礎体力」として必要であるが、インターネット上でチャットをすることで、ネットワーク辞書の利用が可能となり、比較的容易に有意義な語彙(表現)の検索及び実際の使用が可能となる。「基礎体力」を補うためのネットワークの意義や、チャットという協同作業による学習者同士での教え合いも期待される。

これらに加えて、チャット独特の利点としては、自分の英語をモニターすることが可能になり、化石化してし

* 附属実技教育研究指導センター

** 言語系(英語)教育講座

表1 会話の問題点とチャットの利点(原田 2000 改編)

Problems of conversation activities for students
Mental pressure:
-Being afraid of making mistakes
-Being too shy to speak English with classmates
Poor linguistic ability:
-Lack of listening skills
-Limited lexical & syntactic knowledge
Limited length of time:
-No time to monitor their English
-Leaving their fossilized English unnoticed
Interlocutors:
-Being available only from classmates
Pedagogical benefits of this "chat" program for students
Chat name:
-Reduces the anxiety of making mistakes.
-Encourages English communication with classmates
Screen:
-Helps them understand classmates
-Encourages them to monitor their English
Typing
-Allows them to build their opinion
Frequency & Collocation
-Get them to be more conscious of their English
Internet:
-Enables them to communicate with other learners all over the world

まった自分の英語、間違いに対する意識高揚がはかれることがある。これについては、今回利用したシステムは、チャット終了後に、全ての発言をモニターしたり、発言された語彙の frequency や collocation などを一覧としてあらわすことができる高い機能を備えており、一層意義のあるものである。今回の実践では行っていないが、インターネットに接続していることでより広い範囲の人と実際的なコミュニケーションがはかれるという利点があるのはいうまでもないだろう。

言語学習という視点から、チャットの意義をもう一度考察すると大きく次のようにまとめられよう。

- (1)文字でのコミュニケーションにより心理的緊張感が緩和されインタラクションの機会が増える。
- (2)ネット辞書を使いながら、実際の利用場面で自分の言いたいことを書くことで、語彙や新しい表現を相手にわかるように表出する練習となる。Comprehensible output (Swain 1985) を促進する。
- (3)実際の発話がスクリプトとして残るため、気づき (noticing) を促進する (Schmidt, 1990)。
- (4)一つのトピックについて学習者同士の意見交換をすることで、一緒に考える仲間による協働学習がおこる (三宅 1997 など)。

ただし、この(2)、(3)については、本来イメージングプログラムなど、日本の英語教育環境とはかなり異なった背景のものであることも付け加えておく。

III. 実践報告

3.1 学習者と利用システム

それでは、今回のパイロット的実践の報告をする。

本実践での学習者は、鳴門教育大学大学2年生(39名)で、「英語リーディングⅣ」のクラスである。学習者は、学部1年生時に情報教育の演習を受けており、基本的なコンピュータリテラシー(タイピング、ブラウジング等の能力)は既にもっている。学習者の英語レベルは、本学に導入されているALC NetAcademyのTOEIC(R)テスト演習コース(初級・中級)で平均18.6点(40点満点, SD=3.685)であり、簡易の換算表によるとTOEIC465点程度である。

利用したチャットシステムは、関東学院大学原田祐貨先生が語学教育のために開発したシステム(Language Educational Chat System: L.E.C.S.)であり、システムの特徴は、Harada (2001) や原田 (2004) によると、大きく次の5点である。

- (1)一度に同じトピックの部屋を複数用意できること
- (2)チャットが終わるとスクリプトが記録されていて、いつでも閲覧できること
- (3)チャットの発言回数、発言のセンテンスの長さを個人、部屋別、学校別などで分類して提示できること
- (4)使っていた単語を頻度順に提示でき、JACET 4000 BASIC WORDSに入っているかどうかを提示できること
- (5)使っていた単語にみられる、よくある間違いを提示できることなどである。

(詳細は Harada (2001) や原田 (2004) を参照)

これまでのチャットシステムに比べて、終了後に学習者にフィードバックをするための機能が多く付加されているのがよくわかる。



図1 L.E.C.S.のトップ画面:原田(2004)
http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~taoka/lecs/index.html

3.2 授業の目的と流れ

授業の目的は、「英語でのチャットを通して文字による意見のやりとりを行う」「チャット相手の意味のある文字発話から情報を読み、自分の意見をいう」という2点である。この英語使用により、「学習者の英語学習に対するモチベーションを高めること」も間接的な目標として設定した。

授業の流れを大まかにフローチャートとして表したものが図2である。

授業準備として、図3のようなインデックスページを作成し、左のフレームに、「ネット辞書へのリンク」、「困ったときの表現」、「チャットルームへの入り方」を説明し、メインフレームに「チャットの手続き」及び「約束ごと」として次の6つの条件を設定した。

- (1)英語のみを使うこと
- (2)はじめに自己紹介をすること

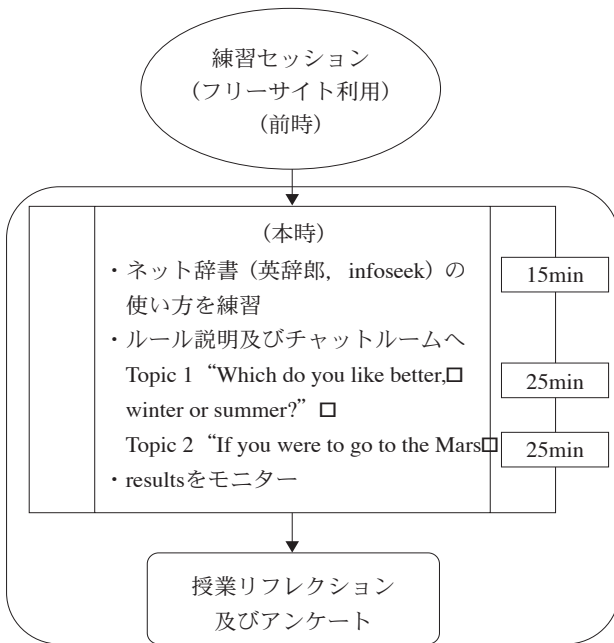


図2 実践の流れ



図3 インデックスページ
<http://www.naruto-u.ac.jp/~kanesige/chat.htm>

- (3)友だちの意見に対して必ず自分の考え・意見・感想をのべること
- (4)自分の意見を最低3つは発言すること
- (5)わからない言葉はネット辞書を使うこと (もしくは、発言者にたずねること)
- (6)グループ分けの紙に○のついている人が最初にグループのイニシアチブをとること

以下、それぞれの段階での授業記録を報告する。

英語によるチャットの練習は、実施の前週に主活動の終了者を中心に10分程度行った。特にトピックを設定せずに「あいさつ」や「趣味」などについて教師がコーディネーターとして参加し質問をしながら学習者の意見を引き出すようにした。チャットルームの設置が1つであり、一部の学生のみでの参加(発言)にとどまってしまうが、日本語でのチャットや携帯端末によるメールのやりとりと同様の感覚で、大きな操作上の問題はなかった。

本時では、まず個人で15分程度のネット辞書を利用する練習をした。ここでは、センテンスレベルの翻訳をさせるのではなく、知らない語彙・表現を早く検索することを目的として行った。画面設定は一画面内にフレームを設置して辞書を埋め込む予定だったが、利用したチャットシステムの都合上、新しいページを開きタスクバーに常駐させ、そこで辞書を利用することとした(図4)。



図4 フレームと辞書の位置関係
(右下は英辞郎 ALC : <http://www.alc.co.jp/>)

チャット活動では、トピック毎に8ルームを設置し、1ルームにつき4,5人というグループ分けを配付資料によりランダムに行った。各グループには一人ずつのコーディネータ役を指示した。

ディスカッションで扱うトピックは2つで、"Which do you like better, winter or summer?" "If you were to go to the Mars tomorrow, what would you take with you?" である。前者は、比較をしながら理由を述べる機能を、後者は仮定に対して自分の意見とそれをサポートする理由を述べ

る機能を行わせるタスクとした。それぞれ最初の数分は自己紹介の時間とし、その後はコーディネーターの指示ですすめていくようにした。全体で一つのトピックにつき25分程度を設定した。

全てのチャットが終了した時点で、L.E.C.S.の結果提示を利用した各学習者の発言回数、発言のセンテンスの長さ、使った単語頻度などをモニターする時間を授業リフレクションに並行して与えた。

3.3 チャットの結果（学習者の発話について）

それでは、今回の学習者のチャットの実際はどのようなものだったのだろうか。L.E.C.S.で可能な結果表示は、前述のように、全体の発言数、発言のセンテンスの長さ、使用単語頻度、発言のスクリプトなどであるが、本稿では、全体の発言数及び発言のセンテンスの長さのみを扱う。他項目の結果例は、Appendix1に示す。

表2は、それぞれのトピックにおける発言数とセンテンスの長さ（1文内の語数）である。Topic 1よりTopic 2の方が、発言数が増えているのがわかる。これは慣れとともにより活発なインタラクションが起きていることを表しているだろう。発言の長さが僅かではあるが、短くなっている点については、巡回指導中に意見をはやく返すように指示をだしたことが影響しているだろう。いずれにしても、Harada (2004)より抽出した他大学での大学2年生の参考データと照らし合わせても、大きな違いがないことがわかる。

表2 発言数とセンテンスの長さ

	Topic 1	Topic 2	合計	参考データ
Total number of writing	293	341	634	2388
Average number of words in one sentence	3.9	3.6	3.7	3.8

〔参考データは、大学2年生を対象に実施した他大学でのデータ：Harada2004より抽出〕

3.4 アンケート調査

アンケートについて

授業終了後、受講生39名にchatを利用した英語学習に関するアンケート調査を実施した。調査は、「興味・関心等に関するもの」、「chatを利用した授業での自己評価に関するもの」、「chat学習の効果・可能性に関するもの」の各項目から構成した。それぞれの下位項目は、以下の通りである。各項目とも、「全くそう思う」を5、「全くそう思わない」を1とした5段階評価で調査を行った。調査で使用した質問用紙は、Appendix3に示すとおりである。

【興味・関心等に関する項目】

2. 英語を使った chat は楽しい

3. 英語を使った chat は難しい
4. chat を使った学習に興味をもてた
5. chat を使った学習を、またやってみようと思う
6. chat を使った、外国の人とコミュニケーションしたいと思う

番号は質問項目番号を表す

【chatを利用した授業での自己評価に関する項目】

1. chat に積極的に参加できた
7. 本時の chat を利用した英語授業において、自分の意見が言えた
8. 本時の chat を利用した英語授業において、相手の意見をうけて、コメントを返すことができた
9. 本時の chat を利用した英語授業において、新たな話題提供をし、話をふくらますことができた
10. 本時の chat を利用した英語授業において、効果的に辞書を活用することができた
11. 本時の chat を利用した英語授業において、自分の意見が明確に相手に伝わるように心がけた
12. 本時の chat を利用した英語授業において、文法的間違いをおかさないように気をつけた

番号は質問項目番号を表す

【chat学習の効果・可能性に関する項目】

13. 英語を使った chat は、英語力アップにつながると思う
14. 英語を使った chat を通して、自分の意見・考えを深めることができると思う

番号は質問項目番号を表す

結果と考察

各項目とも、回答の1, 2を「肯定的反応」、4, 5を「否定的反応」、3を「中間的反応」として、結果の反応分布を百分率で表したものが図1から図14である。また、得られた回答の集計結果はAppendix2に示すとおりである。

【興味・関心等に関する項目】

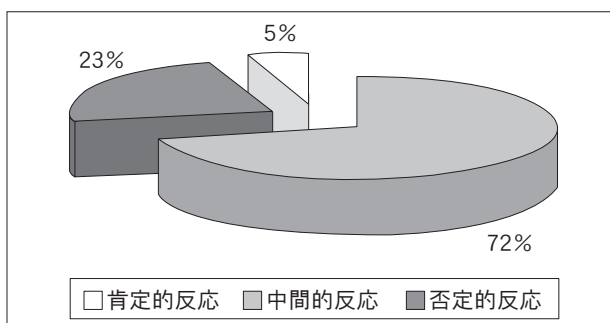


図5 2. 英語を使った chat は楽しい (n=39)

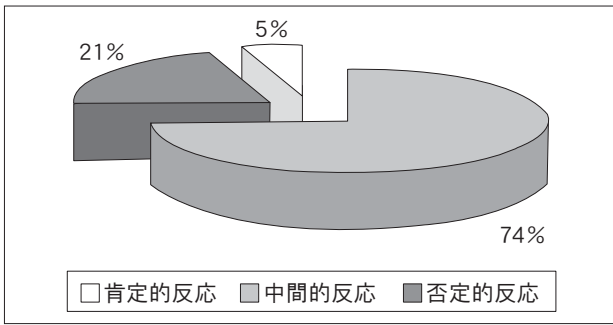


図6 3. 英語を使った chat は難しい (n=39)

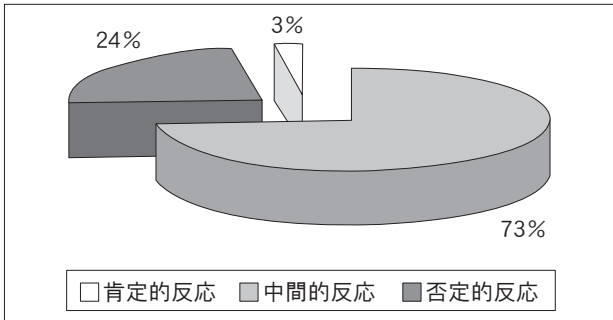


図7 4. chat を使った学習に興味をもてた (n=39)

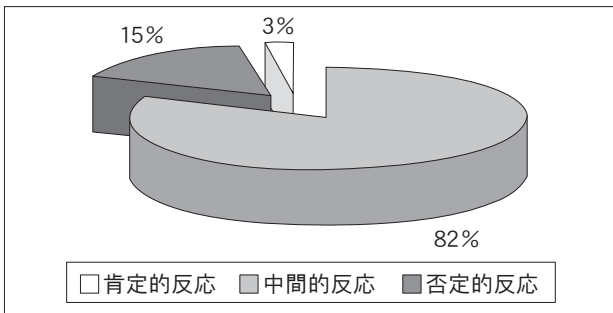


図8 5. chat を使った学習を、またやってみたいと思う (n=39)

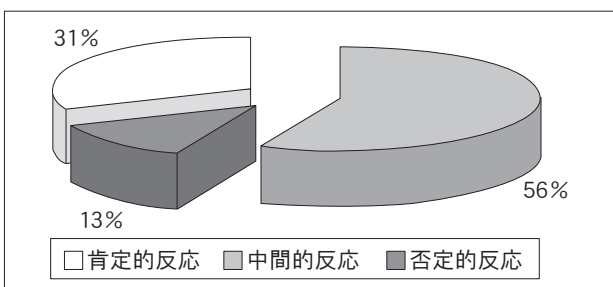


図9 6. chat を使って、外国の人とコミュニケーションしたいと思う (n=39)

英語を使った chat は「難しい」と答えたものが74%におよんでいたが、英語を使った chat は「楽しい」「興味をもてた」「またやってみたいと思う」という肯定的な反応も、それぞれ72%、73%、82%という結果を得られた。このことから、「chat は難しいけれども挑戦してみたい」という学習者の chat を使った英語学習への強い興味・関心が表れているといえよう。

「chat を使って、外国の人とコミュニケーションをした

と思う」という項目については、56%のものが肯定的な反応を示している一方で、否定的な反応も31%におよんだ。chat を利用した英語学習の経験が少ないことを考慮すれば、即時的な反応が求められる chat で、外国人とコミュニケーションを図ることには、今の段階では抵抗があるのかもしれない。ただ、半数以上が肯定的な反応を示していることから、経験を重ね chat に慣れることで、興味・関心をもつものも増えるのではないかと推察される。

【自己評価に関する項目の結果】

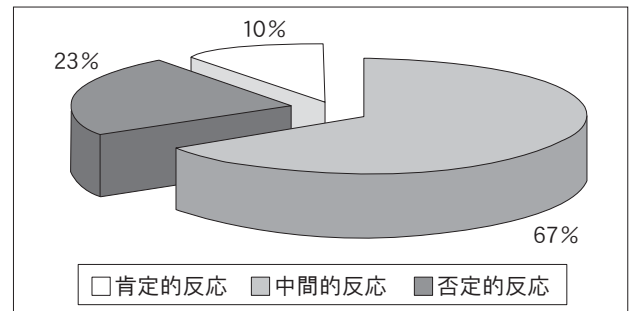


図10 1. chat に積極的に参加できた (n=39)

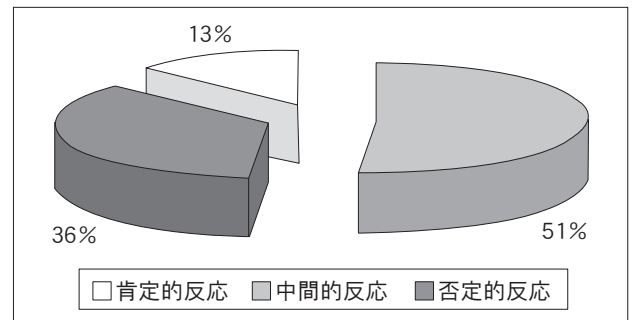


図11 7. 本時の chat を利用した英語授業において、自分の意見が言えた (n=39)

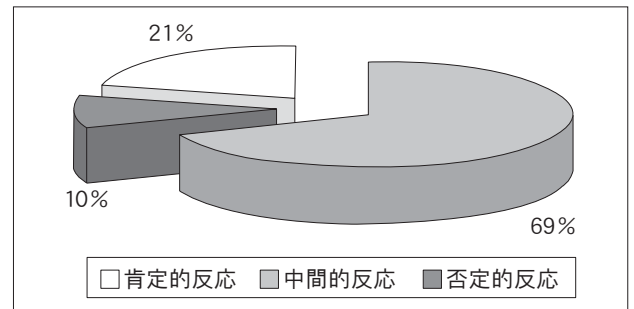


図12 8. 本時の chat を利用した英語授業において、相手の意見をうけて、コメントを返すことができた (n=39)

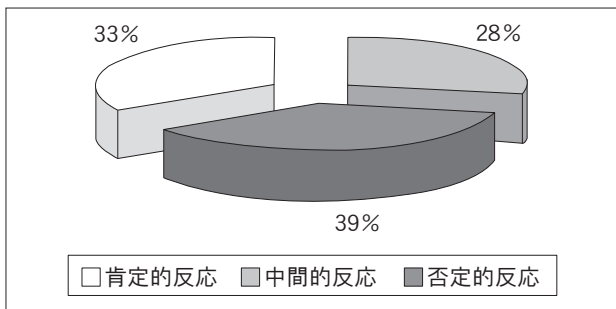


図 13 9. 本時の chat を利用した英語授業において、新たな話題提供をし、話をふくらませることができた (n=39)

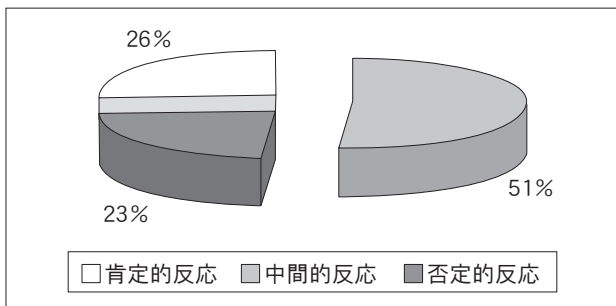


図 14 10. 本時の chat を利用した英語授業において、効果的に辞書を活用することができた (n=39)

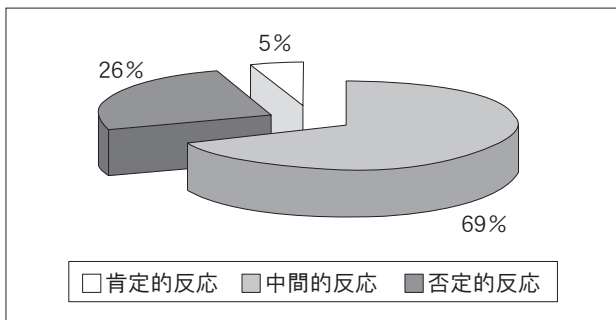


図 15 11. 本時の chat を利用した英語授業において、自分の意見が明確に相手に伝わるように心がけた (n=39)

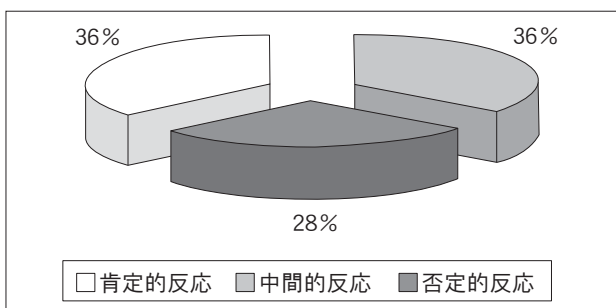


図 16 12. 本時の chat を利用した英語授業において、文法的間違いをおかさないように気をつけた (n=39)

chat を使った実践は、今回で2回目であったにもかかわらず、「chat に積極的に参加できた」とする反応が多く見られた。また、本時の目標であった「自分の意見を言うこと」、「相手の意見をうけて、自分の意見を言うこと」の各項目は、目標を達成できているようである。特に、

「相手の意見をうけて、自分の意見を言うこと」については、肯定的反応が69%におよんでいる。

一方で、「新たな話題を提供し、話をふくらませること」については、33%が否定的な反応を示しており、28%の肯定的反応を上回っている。これは、本時における5人グループでの chat の場合、話が展開するテンポについていけなかったということが原因として考えられるのではないだろうか。この点については、chat に慣れること、あるいは chat のグループを小人数で構成し、話の展開のテンポを調整することで対処できると推察される。

「効果的な辞書の利用ができた」という項目については、肯定的反応が51%であるが、否定的な反応も26%におよんでいる。これは、オンライン辞書は chat 環境では意味の検索が短時間でできる便利なツールとして認知されている一方で、即時的反応が求められる chat においては、十分に辞書を使いこなす時間がないという面を示唆しているといえよう。

また、質問項目 11, 12からは chat においては、英語の文法に注意を払うよりも、内容・意志伝達を重視するという学習者の反応が見られる。

【chat 学習の効果・可能性に関する項目】

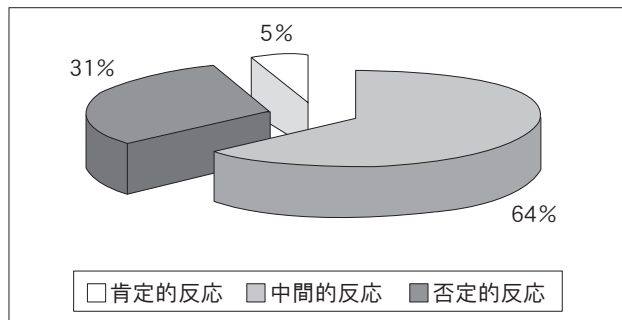


図 17 13. 英語を使った chat は、英語力アップにつながると思う (n=39)

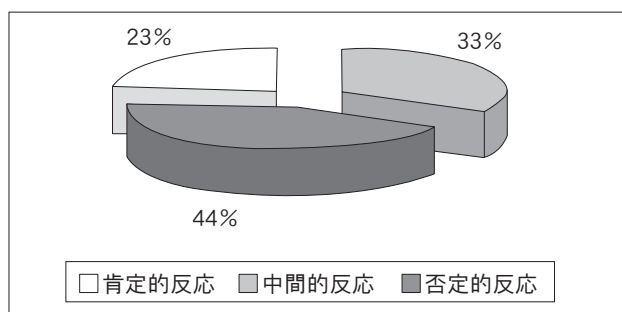


図 18 14. 英語を使った chat を通して、自分の意見・考えを深めることができると思う (n=39)

「英語を使った chat で、英語力アップにつながると思う」という項目における肯定的反応は64%におよんでいる。chat においては相手の反応に即時的に返答することが求められ、英語を使用する頻度が増すが、このことを、質問項目 11 で得られた回答結果と照らし合わせて考え

れば、文法項目に注意することよりも、実際に英語を使う機会が増すことの方が、英語力の向上につながると考えている傾向があるということが推察される。

一方で、「自分の意見・考えを深めることができる」という項目については、肯定的反応が否定的反応をわずかながら上回ってはいるが、中間的反応が44%と非常に多かった。質問項目7,8で得られた結果と照らし合わせて考えれば、chatでは自分の意見を表現し、相手の意見をうけて何らかのコメントをすることもできるが、chatに関わる即時性・時間的制約のために十分に考えや意見を深められているかどうかについては、わからないといった結果を示していると推察される。

【自由記述から】

自由記述では、chatを利用した英語学習の利点、問題点を実際に経験した学習者から抽出することを目的とした。それぞれを簡単に分類したものが次のコメントである。

「chatを利用した英語学習の利点」

<楽しさに関するもの>

- ・楽しい、面白い
- ・一番はおもしろさ。勉強という感じがしないから取り組みやすいし、自分の意見を相手に伝えたいから英語を使おうと必死になる。
- ・遊びの中にも教育的効果がある。

<文字コミュニケーション・チャットの意義>

- ・相手の顔がわからないので間違いをおそれずにできる。
- ・文面になっているので誰がどのように考えているかわかりやすい。
- ・送信する前に自分の発言を確認できるので、相手に明確に伝わるように考えることができる。
- ・しゃべるのが苦手でも文字での会話なら文章をゆっくりと考えながらつくることのできるのやりやすい。

<その他>

- ・即時性のある反応で会話的に実施できる。
- ・自分の言いたいことを英語にしようとするので、辞書を使うのが楽しい。
- ・相手の反応がすぐくるので、すぐに英語を返さないといけないので早く考えられる。

「問題点」

<文法的正確さや英語学習との関係に関する問題>

- ・文法（の正確さ）に注意を払えない（払わない）。
- ・日本の受験勉強目的には役立たない。
- ・英語学習しているという意識が大事。
- ・辞書を有効に使わないで、知っている中だけで話す内容や文法表現など限られて学習にならない。

<システム上の問題>

- ・（時間差があるために）話がなかなかかみ合わない。
- ・更新スピードが遅い。

<個人差に関する問題>

- ・ある程度のスピードが必要。
- ・タイピングに時間がかかる。
- ・様々な英語のレベルが違うのでむずかしい。
- ・同じ言葉しか使わず、話が広がりにくかった。

<その他>

- ・題材にそったかたちでチャットできなかった。
- ・話題を振ってくれないと話題に参加できない。
- ・辞書を使って述べても相手はその意味がわからないことが多かった。
- ・発言している人としていない人の差が激しい。

自由記述においてもアンケート結果とほぼ同様の結果がえられている。学習者自身は、今回のチャットを楽しみながらできたとコメントしているものが多く、チャットという文字を介したコミュニケーションが心理的負担を軽減したこと、スクリプトが残るので相手の言いたいことを理解しやすかったという利点を指摘している。ネット辞書の利用に関しては、その意義を認めてはいるが、うまく使うことができず、新しい表現を利用していくには、まだ難しいように思える。これは、同じく英語力やタイピングのスピードといった個人差とあわせて検討していく必要がある。

文法的正確さに対する指摘については、今回スクリプトを十分に検討する時間がなかったことがひとつの問題としてあげられよう。

IV. ま と め

本稿では、授業内で英語によるチャットを行い、それに対して学習者がどのような印象をもつかを中心に実践報告を行った。

結果として、学習者は概して英語によるチャットには好意的で、授業内でのクラスメートとの活動だけでなく発展的に外国の人ともしてみたいと考えているものも少なくないことがわかった。その理由として、文字によるコミュニケーションのために心理的緊張感が緩和されること、自分や対話相手の発言が文字として残るために理解しやすく、またモニターしやすいという点がある。この事実は音声コミュニケーションを否定するものではなく、むしろ自信をもって対面型のコミュニケーションに取り組むためのモチベーション高揚としても利用できると思う方が望ましいだろう。

しかし一方で、いくつかの問題点も明らかになった。まず、「文法的正確さ」に対する意識の問題である。学習

者自身も認識しているように、とりあえず伝われば良いという意識が強すぎて、正確さを無視してしまう傾向がみられた。流暢性と正確性の関係については非常に調整が難しいが、少なくとも自分たちの発話に対して十分なリフレクションの機会を設けて、モニターする時間をつくる必要がある。今回利用したシステム L.E.C.S は、使用頻度の高い語彙に対して、おかしやすい間違いをあらかじめ用意して、チャット後の学習活動に利用できるよう設定されているが、これをもっと効果的に利用すべきであった。

また、「話を発展させていくことが難しかった」という意見があったが、トピック選択の方法やコーディネーターの役割を明確にすることで、ある程度対処できよう。

最後に、システムの問題とコンピュータリテラシーの問題であるが、前者はネットワークやサーバーの高性能化で解決できるであろう。コンピュータリテラシーについては、英語だけでなく情報教育や他科目での総合的な学習が必要である。

いくつかの問題を残しているものの、今回の実践によりチャットの英語学習への貢献可能性について明らかになった。これからは、他技能との関連も含めたホリスティックな授業計画を作成し、システムの発展をしていきたい。

謝 辞

本実践においてチャットシステム L.E.C.S. 及び同シス

Appendices

Appendix 1: Word frequency の例

Word	Frequency	JACET	Common Problems
I	295	—	—
YOU	193	1	—
LIKE	137	1	GO
IS	137	1	—
TO	106	1	—
DO	83	1	—
MY	75	1	—
WHAT	71	1	GO

注)

[Words] Click each word in the list, and you will see how you used it in the chat session.

[Frequency] The number in the "Frequency" shows how often you used the word in the chat session.

[JACET] The numbers represent the frequency of words listed in JACET 4000 Basic Words:

1 = the 1st to 500th most frequently used words; 2 = 501 to 1000; 3 = 1001 to 2000; 4 = 2001 to 3000; 5 = 3001 to 5000.

The words with an asterisk "*" are not included in the JACET 4000 Basic Words, and are not misspelled.

The words with dash "-" are not included in the list but may be misspelled. Therefore, you should consult a dictionary.

[Common Problems] If the words you used in the chat session correspond to those listed in "Common Problems", click the "GO" button.

You will then view examples of mistakes made by other learners. (Harada 2004)

テム上のデータ提供をいただいた関東学院大学原田祐貨先生には厚く御礼申し上げます。

references

原田祐貨 (2000) 『Creating a "Chat" for Learners, Teachers, and Researchers』

<http://home.kantogakuin.ac.jp/~taoka/presentation/sld001.htm> (2004 02 02)

原田祐貨 (2001) "A Chat Room for a Conversation Class"

<http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~taoka/pre2001/index.files/frame.htm>(2004 02 02)

原田祐貨 (2004) "About LECS"

<http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~taoka/lecs/lecs.html>(2004 02 03)

三宅なほみ (1997) 『インターネットの子どもたち』岩波書店

Schmidt, R. (1990). The role of consciousness in second language learning. *Applied Linguistics*, 13. 206-226

Swain, M.(1985) The output hypothesis: Just speaking and writing aren't enough. *The Canadian Modern Language Review*, 50.158-164

Tomohiro Yasuda & Taoka Harada (2002)"Creating an Enhancing Automatic TA in an English Chat Session" JALT CALL 2002

http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~taoka/pre2002/presentation/presentation_Jaltcall2002.files/frame.htm

Appendix 2 : アンケート結果 (実数 : 人数)

	1	2	3	4	5	合計
	肯定的反応		中間的 反応	否定的反応		
1. chat に積極的に参加できた	11	15	9	3	1	39
2. 英語を使った chat は楽しい	14	14	9	2	0	39
3. 英語を使った chat は難しい	19	10	8	2	0	39
4. chat を使った学習に興味をもてた	18	10	9	1	0	38
5. chat を使った学習を、またやってみようと思う	19	13	6	1	0	39
6. chat を使って、外国の人とコミュニケーションしたいと思う	13	9	5	11	1	39
7. 本時の chat を利用した英語授業において、自分の意見が言えた	5	15	14	4	1	39
8. 本時の chat を利用した英語授業において、相手の意見をうけて、コメントを返すことができた	3	24	4	7	1	39
9. 本時の chat を利用した英語授業において、新たな話題提供をし、話をふくらませることができた	1	10	15	11	2	39
10. 本時の chat を利用した英語授業において、効果的に辞書を活用することができた	10	10	9	5	5	39
11. 本時の chat を利用した英語授業において、自分の意見が明確に相手に伝わるよう心がけた	8	19	10	2	0	39
12. 本時の chat を利用した英語授業において、文法的間違いをおかさないように気をつけた	4	10	11	11	3	39
13. 英語を使った chat は、英語力アップにつながると思う	10	15	12	2	0	39
14. 英語を使った chat を通して、自分の意見・考えを深めることができると思う	7	6	17	9	0	39

Appendix 3 : アンケート

英語リーディングⅣ

Name ()

※当日はヤマトを使った英語学習をします。

下のHPにアクセスしてください。続きは指示を待ってください。

<http://www.nanulc.u.ac.jp/~kaneisige/chat.htm>

◆次の指定された部屋に入ってください。
番号に○がついている人は、コーディネータ役です。

	TOPICS	No.(Chat room No.)
1	Which do you like better winter or summer?	
2	If you were to go to the Mars tomorrow and could take only one item, what would you take there with you?	

◆それぞれの項目について、あてはまるものの番号に○をつけてください。

- chat に積極的に参加できた
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- 英語を使った chat は楽しい
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- 英語を使った chat は難しい
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- chat を使った学習に興味をもた
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- chat を使った学習を、またやってみたいと思う
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- chat を使って、外国の人とコミュニケーションしたいと思う
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- 本時の chat を利用した英語授業において、自分の意見が言えた
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- 本時の chat を利用した英語授業において、相手の意見をうけて、コメントを返すことができた
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- 本時の chat を利用した英語授業において、新たな話題提供をし、話をふくらませることができた
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない

- 本時の chat を利用した英語授業において、効果的に辞書を活用することができた
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- 本時の chat を利用した英語授業において、自分の意見が明確に相手に伝わるように心がけた
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- 本時の chat を利用した英語授業において、文法的問題をおかさないように気をつけた
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- 英語を使った chat は、英語力アップにつながると思う
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない
- 英語を使った chat を通して、自分の意見・考えを深めることができると思う
全くそう思う 1 2 3 4 5 全くそう思わない

◆自由記述で答えてください

15. chat を利用した英語学習の利点は何かとおもいますか？

16. chat を利用した英語学習の問題点は何かとおもいますか？

17. 授業を終えての感想は？